

災害ごみ、処理に5〜7年

南海トラフ
で環境省

環境省は25日、南海トラフ巨大地震で発生する建物のがれきなど災害ごみの処理期間について、5〜7年程度を見込んだ計画とする方向で検討に入った。東日本大震災の処理にかかった3年を前提に検討してきたが、必要な資機材が多いなど実現可能性が低いとみ

た。東日本大震災の災害ごみ

は約3千万ト。環境省は南海トラフ巨大地震により37都府県で計約3億トとの推計をまとめている。今回の処理期間を巡る議論では、別の計算方法による約2億5千万トのケースを前提とした。

同日開いた有識者検討会に、ブロック内で処理できないごみを他ブロックに運ぶ「広域処理」のシミュレ

ーションを提示した。他ブロックへの輸送が必要となるのは、中部、四国両プロ

ック。全量を海上輸送し、3年で処理すると仮定した場合、少なくとも186隻の船舶が必要となった。委員からは「現実的には難しい」との指摘が出た。

5年、7年の場合、それぞれ57隻、31隻との試算も示した。環境省は陸上輸送なども考慮して、目標とする処理期間を詰める方針だ。